

第 40 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2009 年 11 月 21 日～23 日（金沢大学）  
セッション討議内容の記録

|                                    |   |
|------------------------------------|---|
| セッション名：データ収集・活用                    |   |
| 日付：11月 21日（土）曜日、セッション時間：9：00～10：30 |   |
| 司会者名（所属）：青野貞康（東京大学大学院）             |   |
| 討議内容                               | セッション全体：3 篇の論文の独立性が強く、個別の討議に終始した。   |
|                                    | （発表番号）発表者名（所属）：(61) 澤田英郎（西日本高速道路エンジニアリング関西）<br>発表者によると開発したナンバープレート調査システムの精度が AVI 等より高い理由は、ハイビジョンにより解像度の高い画像を利用できる点である。ナンバープレートの自動認識については今後の開発が必要であることから、既存の AVI にハイビジョンビデオカメラを用いればよいのではとの指摘があったが、AVI は費用や電源確保の点で制約があるとのことであった。<br>動画中の車両を判別して静止画として保存する自動画像解析ツールについて、自動車以外にも歩行者・自転車などでも適用可能であり、防犯カメラとしての利用も検討しているとのことであった。  |
|                                    | （発表番号）発表者名（所属）：(62) 藤原直生（東京大学大学院）<br>携帯電話の地図サービスの利用履歴をもとに歩行者経路の推定を行っており、対象地区に不慣れな者、携帯電話を使いこなしている者にサンプル属性が偏るのではないかと指摘があり、発表者からはあくまで選択肢集合の 1 つのパターンとして考えているとの回答があった。<br>全体としては大量のデータを用いているにもかかわらず、対象地区を渋谷のある OD に限定してゆくと少数サンプルになってしまい、モデル化には不向きなデータではないかという指摘があり、発表者からは OD を限定せず、多様な OD で共通する選択肢集合の要因を抽出したいとの回答があった。これに対して抽象化していくことで個別の議論ができなくなるという指摘があった。<br>また、渋谷のような街路が密な地域にはこの手法は向いていないのではないかと指摘があり、発表者からはネットワークが密であり、高層建築による GPS の誤差もあり、本来なら住宅地を対象にするのがよいかもしいという回答があった。                  |
|                                    | （発表番号）発表者名（所属）：(63) 三谷卓摩（東京大学大学院）<br>パーティクルフィルタに関して、パラメータや運動方程式の設定の考え方について質問があり、発表者は検討を続けていくが、対象を自動車とした場合、データ取得間隔に対して誤差が大きいため補正が困難であり、今後は歩行者の回遊データを対象にしたいと考えているとのことであった。これに対して、歩行者の携帯 GPS からのデータは市街地では大きく飛んでしまう点が出てきて補正の際に大きな問題になるという指摘があった。<br>パーティクルフィルタによる補正を行うと交差点での停止時間が長くなるのはどうしてかという質問があり、発表者からは交差点近傍で速度が閾値以下となると停止と判断しているため、生データでは測位誤差でデータが飛んでしまうとデータ上の速度が上昇し移動していると判断されるためであろうとの回答があった。<br>空間データからどうパラメータリゼーションを行うのかという質問があり、発表者からは、このデータだけで求められるものではないが、単独でも何も無いよりはよいだろうとの回答があった。 |